

古い人を脱ぎ捨て、新しい生き方をする教え（4：25～）の総まとめのような部分。

I 「無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしりなどを、いっさいの悪意とともに、みな捨て去りなさい。」：31

1. 御聖霊の力により、捨てるべきもの。私達の心にあるもの。

①「無慈悲」＝原語：苦さ、苦味、苦々しい感情、苛酷、冷酷。和解を拒否する恨みがましい思い。

私達は、侮辱、軽視に対して恨みをじっと心の中に抱き続ける事がある。何度もその事を  
思い出しては、苦い思いを抱き続ける。自分自身を蝕んで行く。抑圧された憤怒。

これが表に出たもの→

②「憤り」＝原語：激情、憤怒、激怒。怒りの爆発。

③「怒り」＝定着した怒りの情。日が暮れるまで怒り続ける。悪への怒りではなく、人を憎む怒り。  
人を殺す怒り。

④「叫び」＝憤り、怒りに駆り立てられての叫び。怒り叫ぶ口論。

⑤「そしり」＝悪口、中傷、悪口・中傷好き。当人不在の所で悪口を言う事。

「いっさいの悪意とともに」。「悪意」の原語：悪、悪徳、意地悪・陰険な心、根性。

私達の心には、悪意、意地悪な心がある。

2. 「みな捨て去りなさい」。

一部ではなく、あるものを残してではなく、みな（一つ一つはつながっている）。

「捨て去りなさい」の原語の時制：不定過去の命令形＝少しずつ、そのうちにではなく、きっぱり  
との意。

「捨て去る」の原語：取り去る、取り除く（「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」ヨハネ1：29。  
先行する主の恵み）、切り取る。

3. どのようにして捨て去る？

①まず、自分の心の中に、無慈悲、憤り、怒り、そしり、悪意の罪がある事を認め神に告白し、  
赦しをいただく。

②これらの罪を神に頼り、捨て去る決心をする。その真剣な決心を神は喜ばれ助けられる。  
神の喜ばれない罪を捨て去ることができるように祈り続ける。

II 御聖霊が下さる新しい命による新しい生き方。

「お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださった  
ように、互いに赦し合いなさい」：32。

1. どうして、私達が互いに親切にし、心の優しい人となる事が可能なのだろうか。

それは、まず、主の恵みが先行し、まず主が私達に対して、親切で、いつくしみ深く、優しくして  
下さるからである。互いに愛し合わなければと律法主義になる前に、まず神の愛と赦しを受け、  
神に心から愛されている事を深く自覚する事である。

「私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです」（Iヨハネ4：19）。

2. 「親切にし」原語：親切な、情け深い、慈悲深い。人付き合いにおいて一緒にいても苦痛を  
感じさせず、人と共感できる思いやり。耳を傾ける愛。

「心の優しい人となり（現在形：なり続けなさい）。「心の優しい」の原語：情深い、慈悲深い。「あわれみ深く」（Ⅰペテロ3：8）。人の苦境への深い共感。31節と対照的。

無慈悲で憤り易い私達を主は、情け深い、心の優しい人へと変え続けて下さる。

3. 「神がキリストにおいてあなたがたを赦して下さったように、互いに赦し合いなさい」。

①互いに赦そうと自分の力で頑張る事では無理。私達は自分の力で人を赦す事は出来ない。

②「神がキリストにおいて赦して下さった」。まずこの神の赦し、恵みをいつも思い出したい。

神が赦された自分を自分でも赦す＝自己受容から、他の人を赦し受容する人へ。

ある人をなかなか赦せない時、神の前に静まりたい。そして静かに思い起こしたい。

今日まで、いかに自分が神に赦され続けて来たかを！驚く恵みを。神の恵みの赦しなければ、今日、生きておらず、とっくに滅んでいる事を。

「キリストにおいて」＝キリストが私達のすべての罪（憎しみ、恨み、ねたみ、陰口、悪口、うそ、不品行）を背負い、十字架ですべての刑罰を私達の代わりに受けて下さった驚くべき恵み。

私達が、人を赦す前に、私達の過去、現在、未来の罪、生涯の罪の負債をまず償って下さった恵みがある！

「おまえがあんなに頼んだからこそ借金全部を赦しやったのだ。私がおまえをあわれんでやったように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか」マタイ18：32，33。

私達は、神にいかに愛され、いかに多くの罪を赦していただいたか、まだまだ深く理解していない。もっともっと深く理解できるように祈り求めたい。神から数えきれない罪を赦された自分は、他の人を赦さない資格はない。

③赦しとは、内住の御聖霊が新しくされた意志の決断、憎み続ける事を捨て、赦す事を聖霊が助けて下さる意志で選ぶ、選択。ひどい事をされた時、最も深い苦悩の中で私達は選択を迫られる。神に頼り、人を赦すと神との深い交わりが回復し自分の心が癒される。

和解か復讐か？憎しみは、自分自身を深く傷つけ、自分自身の心を蝕んでいく。

神との幸いな交わりが持てなくなる。報復は連鎖を生む。兄弟姉妹、子供へ。十字架の主は、報復の鎖を断ち切って下さるお方。

自分を殺そうとする人々の為、そして私達の為「父よ。彼らをお赦してください」（ルカ23：34）

と祈られた主。私達を愛し赦して下さる神に頼り人を赦す（まず自分が赦された恵みを感謝し、赦す愛を与えて下さいと祈りつつ）時、心に真の自由、恵みを与えられる。

赦しは一度限りではない。赦せない気持ちが再び襲ってくる。その度に赦しの神に祈り、赦す事を選ぶ。「赦しなさい：現在形＝赦し続けなさい」。そうすれば自分も赦されます（人を赦していない罪を赦される）。与えなさい。そうすれば自分も与えられます」ルカ6：37，38。

④神が「あなたがたを」赦して下さったとある。神の赦しとは、私達の罪を赦すだけでなく、私たち自身を赦し、愛し、受け入れて下さる、御父と御子との交わりに御聖霊により入れて下さる。  
※「損在」？いや→「尊在」、つまり、神は私達に「わたしの目には、あなたは高価で尊い」と語り掛けておられる！

この神の愛、赦しを私達が受け続ける時、私達も、家族、兄弟姉妹、隣り人の罪を赦し、その人自身を受け入れ愛し交わりを保つ者に変えられて行くのです。